

就任のごあいさつ

長門市長 福田 政 則



今回の市長選挙は、市民を二分する選挙として注目されましたが、市民の皆様は私を支持してくださいました。私はいま、市民の皆様のご期待にそぐべき責務の重大さを痛感し、よい市長として職責を果す決意を新たにしているところであります。

私の市政への基本的な態度は、一党一派に偏することのない市民党の立場に立

つこととあります。常に市民の皆様とともに考え行動する市民本位の政治でなければ、地方自治は色あせたものになると思います。私が選挙中に公約した政策は、平素から市民の皆様が考えておられることを、私なりに考え整理したものであります。長門市の水産業と観光は、地域経済の振興をはかる大きな支柱であり、農業の整備と水資源の確保は、長門市百年の大計に基づくものであります。そして商業は、長門地区広域圏の中核都市にふさわしい、美しい便利な街の形態に伸展しなければなりません。また誘致する企業に公害のないことは勿論のこととあります。私はこうした諸問題の解決に向けて衆知を集め研究と討議を重ね、立派な長門市の建設のために、全力を捧

げる所存でございます。

さて就任してみますと、長門市の財政は極めて乏しく、しかも重要な課題や緊急を要する問題が沢山あります。昭和五十七年度予算は骨格予算と言われながらも、通常予算と同じ程度に組まれております。残された僅かな財源を分け合い、しかも総花的にならない重点施策を明らかにし、漸次公約を実現しなければなりません。私はあせることなく着実な第一歩を踏み出す所存でありますので、今後とも市民の皆様のご支援をお願いするものであります。

最後に、市民の皆様のご叱正をお願いして、甚だ簡単であります。就任のご挨拶といたします。

退任のごあいさつ

前長門市長 高橋 武 雄



市民の皆様一言退任のご挨拶を申し上げます。

昭和四十一年五月から今日まで四期十六年の長い間、市民の皆様から温かいご理解とご支援をいただき、本当に有難うございました。心から感謝し厚く御礼を申し上げます。

顧りみますと、私は政治の基本を「辺地を大切に、人生の底辺に光明を与え

ること」にあると考え、市政を担当して参りました。このことは、言葉は容易であります。現実の政策の問題や複雑な人間関係の中では、非常に困難なことであります。そのために、多くの市民の皆様のご期待に添えなかつたり、ご不満を残したこともあつたと思ひますが、これは偏見に私の力不足と不徳の致すところでございます。

しかし、静かに十六年の市政を回想してみますと、心に迷いの生じた時には初心に帰り、状況が不明の時には市民の皆様のご知恵を頂戴し、終始一貫政治への情熱と理想を崩すことなく、大過なく今日を迎えたことを誇りに思っており、青い海・緑と太陽の街づくりを目指し、市民の皆様と手を携えて歩んで来た

十六年の毎日の営みの中に、微力ながらも全力を捧げた満足感で一杯であります。こうした喜びを、ひそかにかみしめる心境にあつて、退任できますことを私はこの上もない幸福と考えております。

日本の経済は低成長に移行し、行政改革の嵐の中で、地方の時代の地方自治は予断を許さないきびしい情勢にあります。今後は、これまで私に賜りました市民の皆様のご厚情を、後任市長にお寄せいただき、長門市の限りない発展のために協力一致しご支援くださるようお願いいたします。

最後に、市民の皆様のご健康とご多幸を心から祈念し、甚だ簡単であります。退任の挨拶といたします。

